



株式会社 松屋フーズ

〒180-0006 東京都武蔵野市中町一丁目14番5号
TEL：0422(38)1121(代)
http://www.matsuyafoods.co.jp/

郵便はがき

1 8 0 8 7 9 0

料金受取人払郵便

武蔵野局承認

9085

差出有効期間
平成19年12月
31日まで有効

切手不要

(受取人)

東京都武蔵野市中町1-14-5

株式会社松屋フーズ 総務人事部 行



個人情報保護のため氏名はご記入いただかなくて結構です。

住 所 (都道府県名)

(都・道・府・県)

性 別 男 ・ 女

年 齢 20代未満、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上

職 業 会社員、会社経営者・自営業、官公庁・団体職員、
専門職、主婦、無職、その他

株式投資歴 3年未満、3年以上10年未満、10年以上20年未満、
20年以上

該当する項目に○をお付けください。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬
基準日 定時株主総会：毎年3月31日
期 末 配 当：毎年3月31日
中 間 配 当：毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告方法 当社の公告は電子公告により行います。
ホームページアドレス http://www.matsuyafoods.co.jp/
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告を
することができない場合は、東京都において発行する日本
経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10
(電話照会先) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
(その他のご照会) ☎ 0120-176-417
同 取 次 所 住友信託銀行株式会社
本店及び全国各支店
単 元 株 式 数 100株

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを
実施いたします。お手数ではございますが、
下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9887

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト
内にある検索窓に、いいかぶと
4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元
に到着してから約2ヶ月間です。
(2007年8月31日まで)

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を呈星させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」
サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細
http://www.a2media.co.jp) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用さ
せていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用



株式会社 松屋フーズ

松屋

Business Report 2007

第32期 期末報告書

2006年4月1日から2007年3月31日まで

[写真左上より]

●「回転館 福松」新小岩店 ●オリジナルカレーライス ●「松屋」三鷹店 ●カルビ焼肉定食 ●牛めし

「第32期期末報告書」送付および 「第32期期末配当金のお支払い」について

拝啓 株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当社第32期（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の事業の概況を、ここに第32期期末報告書としてお届けいたしますので、よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。

次に、「第32期期末配当金のお支払い」に関する書類も同封させていただきました。下記の通りお受け取りくださいますようお願い申し上げます。

敬具

「第32期期末配当金のお支払い」について

第32期期末配当金（1株につき13円 うち普通配当12円、創業40周年記念配当1円）は、同封の「郵便振替支払通知書」により、お近くの郵便局でお受け取りください。

なお、期末配当金の送金方法をご指定の方には、「第32期期末配当金計算書」および「配当金のお振込先について」を同封いたしましたので、ご確認をお願いいたします。

HIGHLIGHTS | [単体決算ベース]

売上高

59,744 百万円

既存店売上高の前期比は97.0%であったが、前期以降の新規出店による売上増加分等が寄与し、前期比3.6%の増収となった。

経常利益

1,914 百万円

F/Lコスト〔Food（売上原価）とLabor（人件費）に係るコストの合計〕の売上高比は前期比2.9ポイントの上昇となった結果、前期比51.8%の経常利益となった。

当期
純損失

1,005 百万円

子会社株式評価損、国内店舗の減損損失等の特別損失を2,430百万円を計上したことを主要因に当期純損失の結果となった。

2007年3月期は、当期純損失という残念な結果となりました。 2008年3月期は、「美味追求」路線を一層強固なものとし、 業績の回復を目指します。



代表取締役社長
瓦 葺 利 夫

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに当社2007年3月期（以下、第32期）の概況をご報告申し上げます。

Q 第32期の業績はいかがでしたか？

A 外食業界におきましては、食材価格の高騰等に加え、安全・安心に対する消費者意識の高まり、競争激化に伴う『業界大再編時代』の渦中にいることを肌身感じており、経営環境は厳しさを増しております。

当社におきましては、期初に実施いたしました『主力商品「牛めし」の提供方法の変更』『自社精米設備の導入による精米方法の変更』等、調理手順の大幅な変更の影響を受け、既存店売上高の前年同期比（第1四半期）は93.0%と低迷いたしました。そこで第2四半期に取り組んだ様々なテコ入れ策が奏功し、既存店売上高は回復基調となりましたが、第3四半期以降、その基調を維持できず、通期の既存店売上高は、前期比3.0ポイント減少の97.0%となりました。

しかしながら、前期以降の新規出店による売上増加分等が寄与し、総売上高は59,744百万円と前期比3.6%の増収となりました。

次に、当社において重視すべき指標として認識しておりますF/Lコスト〔Food（売上原価）とLabor（人件費）に係るコストの合計〕ですが、まず、売上原価につきましては、牛肉や米をはじめとする『主要食材の仕入れ値の高止まり』に加え、入客数の増加を目的とした『使用食材の質向上、量目の増加』の継続により、原価率は前期比1.4ポイント上昇の33.2%となりました。

人件費につきましては、世の中の雇用環境の好転に伴い、パート・アルバイト平均時給の上昇を主要因に前期比1.5ポイント上昇の32.2%となりました。

結果、売上高は増収となったものの、F/Lコスト比率は前期比2.9ポイント上昇の65.4%となったため、経常利益は前期比51.8%の1,914百万円となりました。

また、国内店舗の減損損失991百万円に加え、2005年12月に買収した米国現地法人『Matsuya Foods USA, Inc. グループ』における『のれん代の減損処理』に伴う子会社株式評価損931百万円等、合計2,430百万円を特別損失として計上したことを主要因に、第32期は1,005百万円の当期純損失となっていました。

Q 「食」関連業界の衛生管理体制について、社会問題にまで発展している昨今、当社の安全・安心に対する取り組みについてお聞かせください。

A 『食の安全性に関する取り組み』はフードビジネスの根幹であります。

当社では、すべてのお客様が『いつでも、安心して』お食事をお楽しみいただけるように、徹底した品質・安全管理体制を確立しています。食材が『いつ、誰が、どのように育て、どのような物流で店舗まで届いたのか』という、生産履歴を把握するトレーサビリティシステムの構築を積極的に推進しています。

また、主要食材の原産地や特定原材料(アレルギー5品目)の情報も当社ホームページで自主表示しています。

2007年2月より、全国の松屋業態にて米国産牛肉を使用した「牛焼肉定食」「カルビ焼肉定食」を販売、また一部店舗

にて同食材を使用した「牛めし」を販売いたしておりますが、販売開始に至っては、当



「米国産牛肉を使用した牛焼肉定食」



社と取引関係にある米国の主要食肉加工会社の生産ラインを徹底的に視察し、その安全性を確信いたしております。

さらには、トレーサビリティシステムの構築にとどまらず、環境配慮の観点から、製造工程で発生した食材残渣や店舗廃棄物を回収し、肥飼料化するという、当社独自の先進的なリサイクル・ループを構築しています(詳細:CSRの取り組みP5～P6参照)。

Q 今後の新業態を含めた店舗展開戦略についてお聞かせください。

A 第32期におきましては、新規出店54店舗のうち、松屋業態に続く第2、第3の柱となるとんかつ業態(松八・松乃家)6店舗、鮎業態(福松)3店舗の新業態を出店いたしました。

一方で、直営19店舗及びFC1店舗は退店いたしましたので、2007年3月末日現在の店舗数は736店舗(うちFC9店舗)となりました(海外8店舗を除く)。

第33期におきましては、既存店の強化策の一環といたしまして、87店舗の改装を予定いたしております。新規出店につきましては、首都圏を中心に厳選した30店舗(うち新業態5店舗)の出店を予定いたしております。

新業態の開発・育成の一手段であるM&Aに関しても、松屋フーズグループとして、最大限のシナジー効果を見込める場合には、積極的に検討してまいります。



2007年3月にオープンした「松八」三鷹店



2006年10月にオープンした「回転鮎 福松」新小岩店

Q 第33期の展望についてお聞かせください。

A 「2006外食産業市場動向調査(日本フードサービス協会)」によると、外食業界全体では、個人消費の回復等を反映し、客単価が上昇した結果、既存店売上高は前年比0.1%増となり、1994年の調査開始以来初めてプラスに転じました。

第33期におきましては「既存店の強化に傾注する」という方針のもと、特に商品戦略面において「美味追求」をコンセプトとし、価値ある商品を適正価格にてご提供させていただくこと等の積極果敢な諸施策を展開してまいります。

一方、株式市場に目を向けると、相次ぐ公開企業の不祥事を背景に「内部統制制度(日本版SOX法)」の重要性・必要性が叫ばれております。

当社におきましては、制度立法化の背景を真摯に受け止め、内部統制システムの構築に向けた社内横断プロジェクトを組織し、コーポレートガバナンスの強化に努めてまいります。



創業41年目となる第33期は「第2創業期のスタート」として捉え、業績の回復に向けて努力してまいります。

株主の皆様方におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



美味追求
オリジナルカレーライス
(350円)

松屋フーズグループでは、日々の営業活動で発生する資源や廃棄物のリデュース（発生抑制・減量化）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）という『3つの「R」をキーワードとした環境配慮型企業活動』、さらには『良き企業市民としての社会貢献活動』を通じ、企業の社会的責任経営にも積極的に取り組んでいます。

その1 食品廃棄物の再生利用促進の取り組み

2006年2月より、東京都内の270店舗を対象に、自社トラック（環境汚染に配慮したハイブリッド車）による廃棄物の回収をスタート。回収した廃棄物を当社セントラルキッチン・嵐山工場内の専用プラントで圧縮乾燥処理し、肥飼料原料として製造・販売する先進的なリサイクル・ループを構築しています。この取り組みにより、当社は店舗食品廃棄物の再生利用実施率29％を達成。現行食品リサイクル法の目標値である2006年度20％の実施率を都内店舗だけでクリアしています。

富士山工場においても、工場内廃棄物の自動搬送と圧縮乾燥機を連携した画期的なリサイクル・システムを設置し、工場内廃棄物を100％リサイクルしています。これらの取り組みにより、2006年度のリサイクル率は全社ベースで60％を超えることができました。



野菜残渣を余すことなくリサイクル



店舗廃棄物の自社回収

生ゴミ真空乾燥機



圧縮乾燥処理後の肥飼料原料

その2 環境に配慮した多彩な取り組み

連結子会社である株式会社エム・エル・エスでは、委託業者との連携により、店舗から排出される廃油の100％リサイクルはもちろん、使用済ユニフォームを「ECOモップ」等へ再生し、店舗で使用しています。

また、洗剤容器、厨房機器のリユースをはじめ、節電・節水を高レベルで実現するシステムも積極的に取り入れています。

当社グループは、これからも総力を挙げて環境保全活動を推進していきます。

厨房機器を有効的にリサイクル



リサイクルモップで店内清掃

その3 地域・社会貢献活動への取り組み

地域・社会へ貢献できる食の総合企業を目指して、当社グループでは、障害者雇用や小・中学生の職場体験の受け入れを始めとする多彩な活動を展開しています。

さらには、東京都内の店舗を中心に、「こども110番」の活動に賛同。地域の子供達が不審者に声を掛けられる等、「身の危険を感じた時の駆け込み場所」として、犯罪防止活動の一役を担っています。

また、東京都練馬区及び静岡県富士宮市とは「災害時における弁当・食材等の供給協定」を締結しています。

「地域・社会貢献活動への取り組みを通じ、良き企業市民であり続けたい。」それも当社グループの願いです。



富士宮市食材供給締結



職場体験の風景

味噌豚あいもり定食

2006年
10月12日(木)
発売



一皿で豚タンとロース2種類のお肉がお楽しみいただけます。味噌で味付けをしており、ディナー限定メニューとして新発売。

豚汁和定食

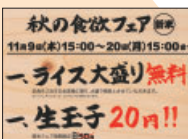
2006年
10月26日(木)
発売



寒い季節にピッタリの豚汁と鮭がセットになった豚汁和定食が新発売!「ほっとするおいしさ、あったか而定食」

秋の食欲フェア

2006年
11月9日(木)~
11月20日(月)



フェア期間中に定食をご注文されたお客様に限り、無料でライス大盛をサービス! 同時に生玉子も1個20円で提供!

めかぶキノコ牛めし・豚めし

2006年
11月10日(金)
発売



大人気の牛めし・豚めしに旬のキノコ、わさび、めかぶをトッピングした自然の栄養がたっぷりの一品が新発売。

ブラぎゅう・ブラとん

2006年
11月29日(水)
発売



松屋満足シリーズ第2弾として好きなメニューに牛めし・豚めしそれぞれのお肉をトッピングできるサービスを開始!

2006年10月~2007年3月までに登場した

新メニューと
キャンペーン

カルビチム定食

2007年
1月20日(土)
発売



大きなカルビと野菜を甘辛く煮込み、韓国の伝統料理を松屋風にアレンジして発売!

牛焼肉定食・
カルビ焼肉定食

2007年
2月1日(木)
発売



多数のお客様からのご意見・ご要望にに応じ、米国産牛肉を使用した牛焼肉定食とカルビ焼肉定食を全店で発売!

美味追求! 豚焼肉定食、
豚生姜焼定食、肉野菜炒め定食

2007年
2月15日(木)
発売



肉質がグレードアップして更においしくなった「豚焼肉定食」「豚生姜焼定食」「肉野菜炒め定食」を一部店舗で新発売!

オリジナルカレーライス・
オリジナルハンバーグカレーライス

2007年
3月14日(水)
発売



松屋のカレーが更にパワーアップ。美味追求シリーズとしてお肉や野菜など具材がたっぷり入ったオリジナルカレーライスとボリューム満点のハンバーグをトッピングしたオリジナルハンバーグカレーライスが新発売!

第32期は、54店舗の新規出店。

第32期においては、とんかつ業態(松八・松乃家)6店舗、鮓業態(福松)3店舗の新業態を含む計54店舗を新規に出店した結果(退店は20店舗)、期末総店舗数は736店舗(うちF C 9店舗)となりました。さらには既存店31店舗の改装(全面改装9店舗、一部改装22店舗)も実施いたしました。

全国
736 店舗
うちビルイン店舗519店舗
ロードサイド店舗217店舗
※海外9店舗を除く(単体ベース)



新大久保店(東京都)



西明石店(兵庫県)

23 店舗
うちビルイン店舗11店舗
ロードサイド店舗12店舗
中国・九州圏



前橋元総社町店(群馬県)

94 店舗
うちビルイン店舗67店舗
ロードサイド店舗27店舗
関西圏

69 店舗
うちビルイン店舗17店舗
ロードサイド店舗52店舗
東海・北陸圏



三鷹店(東京都)

39 店舗
うちビルイン店舗6店舗
ロードサイド店舗33店舗
北関東・甲信越圏

486 店舗
うちビルイン店舗407店舗
ロードサイド店舗79店舗
首都圏

首都圏

25 店舗
うちビルイン店舗11店舗
ロードサイド店舗14店舗
北海道・東北圏



「回転鮓 福松」新小岩店(東京都)

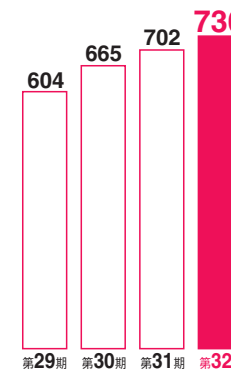


「松八」三鷹店(東京都)



用賀店(東京都)

店舗数の推移



連結財務諸表

●連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期 2007年3月31日現在	前 期 2006年3月31日現在
資 産 の 部		
流 動 資 産	10,162	10,963
現金及び預金	6,715	8,076
受取手形及び売掛金	150	178
有 価 証 券	73	—
た な 卸 資 産	2,037	1,517
繰延税金資産	431	471
そ の 他	771	748
貸倒引当金	△ 16	△ 28
固 定 資 産	39,154	40,530
有形固定資産	23,683	23,889
建物及び構築物	12,446	11,056
機械装置及び運搬具	1,506	1,789
工具器具備品	1,969	2,013
土 地	7,760	7,760
建設仮勘定	—	1,269
無形固定資産	522	1,394
ソフトウェア	227	258
連結調整勘定	—	813
営 業 権	—	304
の れ ん	274	—
そ の 他	20	18
投資その他の資産	14,948	15,246
投資有価証券	17	39
保証金・敷金	12,924	12,954
長期前払費用	594	614
契約仮勘定	40	219
繰延税金資産	502	602
投資土地	456	456
投資建物等	160	133
そ の 他	284	262
貸倒引当金	△ 31	△ 35
資 産 合 計	49,317	51,494

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てています。

グループ会社紹介

（株）エム・ティ・ティ
店舗の総合メンテナンス、厨房機器等販売、店舗の建設施工監理、給排水工事

（株）エム・エル・エス
クリーニング事業及びリサイクル事業、廃棄物回収事業

（株）エム・ビー・アイ
採用・人事関連業務及び事務集中処理業務（シェアードサービス）

（株）エム・エム・シー・エー
教育研修業務及び教育ツール等販売、能力認定試験企画運営、店舗等監査

（株）松屋ファーム
農業及び農業の代行・受託

青島松屋快餐有限公司
中華人民共和国における飲食店舗の運営、地場企業の技術指導、各種業務受託

Matsuya Foods USA, Inc.
米国における持ち株会社。グループの企画・マネジメント業務

Matsuya International, Inc.
米国における食材の仕入・加工・販売

Matsuya New York, Inc.
米国における飲食店舗の運営

Yonehama International, Inc.
米国におけるMatsuya Foods USA, Inc. グループの経理・事務・総務業務

※1.（株）エム・ティ・ティと松屋フーズ建設（株）は平成18年4月1日付けで合併いたしており、（株）エム・ティ・ティが存続会社となっております。
※2. 松屋フーズ開発（株）は平成19年3月に清算いたしました。
※3.（株）松屋ファームと青島松屋快餐有限公司は、非連結子会社で持分法非適用会社。

●連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期 2006年4月1日から2007年3月31日まで	前 期 2005年4月1日から2006年3月31日まで
売 上 高	60,742	57,877
売 上 原 価	20,111	18,431
売 上 総 利 益	40,630	39,446
販売費及び一般管理費	38,824	35,676
営 業 利 益	1,806	3,769
営 業 外 収 益	352	268
営 業 外 費 用	439	362
経 常 利 益	1,719	3,674
特 別 利 益	227	251
特 別 損 失	2,115	1,124
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)	△ 168	2,801
法人税、住民税及び事業税	733	1,668
法人税等調整額	140	△ 181
当期純利益又は純損失(△)	△ 1,042	1,315

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てています。

●連結株主資本等変動計算書（要旨）

当連結会計年度（2006年4月1日から2007年3月31日まで）

（単位：百万円）

科 目	株 主 資 本					評価・換算差額等				純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2 0 0 6 年 3 月 3 1 日 残 高	6,655	6,963	16,208	△ 9	29,818	△ 0	△ 5	△ 6	29,812	
連結会計年度中の変動額										
剰 余 金 の 配 当(注2)			△ 228		△ 228				△ 228	
剰 余 金 の 配 当			△ 247		△ 247				△ 247	
役 員 賞 与(注2)			△ 29		△ 29				△ 29	
当 期 純 損 失			△ 1,042		△ 1,042				△ 1,042	
自 己 株 式 の 取 得				△ 1	△ 1				△ 1	
自 己 株 式 の 処 分		△ 0	△ 0	0	0				0	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						0	△ 6	△ 6	△ 6	
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 0	△1,547	△ 0	△ 1,548	0	△ 6	△ 6	△ 1,554	
2 0 0 7 年 3 月 3 1 日 残 高	6,655	6,963	14,660	△ 10	28,269	△ 0	△ 12	△ 12	28,257	

（注）1. 記載金額は百万円未満を切り捨てています。
2. 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

単体財務諸表

●単体貸借対照表（要旨）

(単位：百万円)

資 産 の 部		
科 目	当 期 2007年3月31日現在	前 期 2006年3月31日現在
流 動 資 産	9,589	10,249
固 定 資 産	39,485	41,123
資 産 合 計	49,074	51,372
負 債 の 部		
流 動 負 債	8,570	9,373
固 定 負 債	12,198	12,189
負 債 合 計	20,769	21,562
資 本 の 部		
資 本 金	—	6,655
資 本 剰 余 金	—	6,963
利 益 剰 余 金	—	16,200
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	—	△ 0
自 己 株 式	—	△ 9
資 本 合 計	—	29,810
負 債 ・ 資 本 合 計	—	51,372
純 資 産 の 部		
株 主 資 本	28,305	—
資 本 金	6,655	—
資 本 剰 余 金	6,963	—
利 益 剰 余 金	14,696	—
自 己 株 式	△ 10	—
評 価 ・ 換 算 差 額 等	△ 0	—
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△ 0	—
純 資 産 合 計	28,305	—
負 債 ・ 純 資 産 合 計	49,074	—

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てています。

●株主資本等変動計算書（要旨）

当事業年度（2006年4月1日から2007年3月31日まで）

科 目	株 主 資 本					評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
2006年3月31日残高	6,655	6,963	16,200	△ 9	29,810	△ 0	△ 0	29,810
事業年度中の変動額								
剰余金の配当(注2)			△ 228		△ 228			△ 228
剰余金の配当			△ 247		△ 247			△ 247
役員賞与(注2)			△ 22		△ 22			△ 22
当期純損失			△ 1,005		△ 1,005			△ 1,005
自己株式の取得				△ 1	△ 1			△ 1
自己株式の処分		△ 0	△ 0	0	0			0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						0	0	0
事業年度中の変動額合計	—	△ 0	△ 1,503	△ 0	△ 1,504	0	0	△ 1,504
2007年3月31日残高	6,655	6,963	14,696	△ 10	28,305	△ 0	△ 0	28,305

(注)1. 記載金額は百万円未満を切り捨てています。

2. 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

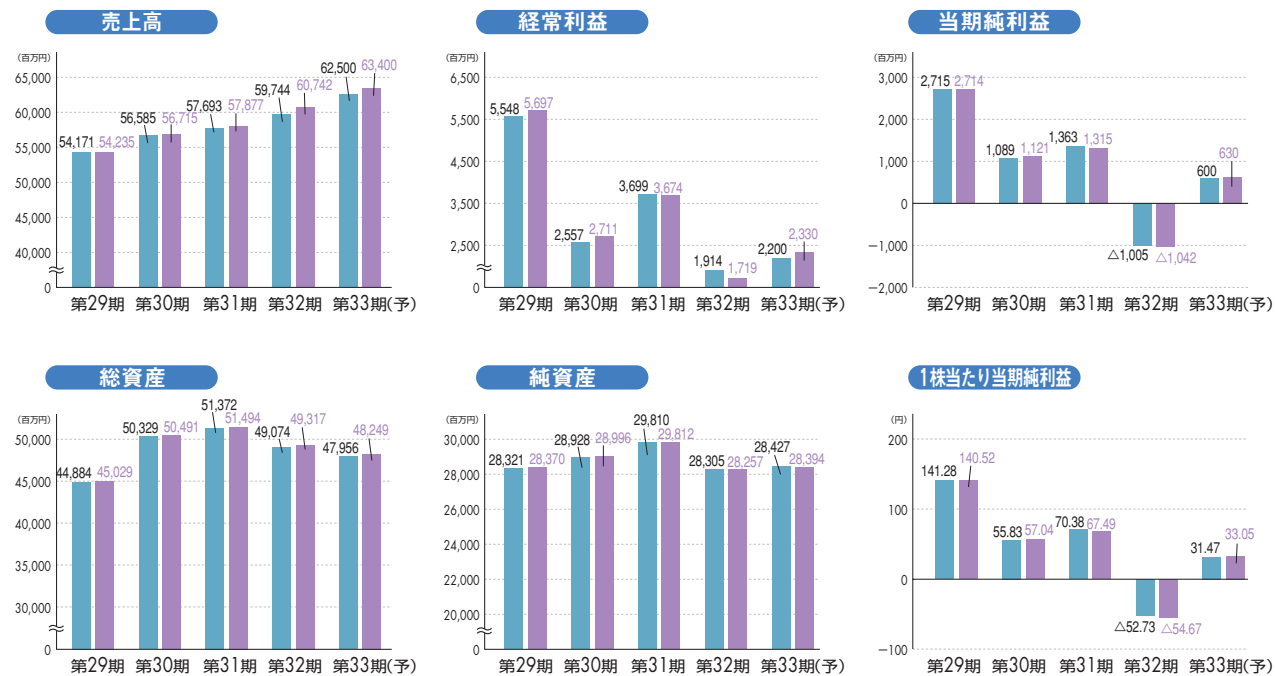
●単体損益計算書（要旨）

(単位：百万円)

科 目	当 期 2006年4月 1 日から 2007年3月31日まで	前 期 2005年4月 1 日から 2006年3月31日まで
売 上 高	59,744	57,693
売 上 原 価	19,836	18,367
売 上 総 利 益	39,908	39,325
販売費及び一般管理費	38,337	35,641
営 業 利 益	1,570	3,683
営 業 外 収 益	832	447
営 業 外 費 用	488	431
経 常 利 益	1,914	3,699
特 別 利 益	220	250
特 別 損 失	2,430	1,202
税引前当期純利益又は純損失(△)	△ 294	2,747
法人税、住民税及び事業税	570	1,583
法人税等調整額	139	△ 199
当期純利益又は純損失(△)	△ 1,005	1,363
前 期 繰 越 利 益	—	535
中 間 配 当 額	—	228
当 期 未 処 分 利 益	—	1,670

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てています。

■単体 ■連結



	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期(予)
■ 売 上 高 (百万円)	連結 54,235	56,715	57,877	60,742	63,400
	単体 54,171	56,585	57,693	59,744	62,500
■ 経 常 利 益 (百万円)	連結 5,697	2,711	3,674	1,719	2,330
	単体 5,548	2,557	3,699	1,914	2,200
■ 当期純利益 (百万円)	連結 2,714	1,121	1,315	△ 1,042	630
	単体 2,715	1,089	1,363	△ 1,005	600
■ 総 資 産 (百万円)	連結 45,029	50,491	51,494	49,317	48,249
	単体 44,884	50,329	51,372	49,074	47,956
■ 純 資 産 (百万円)	連結 28,370	28,996	29,812	28,257	28,394
	単体 28,321	28,928	29,810	28,305	28,427
■ 1株当たり当期純利益 (円)	連結 140.52	57.04	67.49	△ 54.67	33.05
	単体 141.28	55.83	70.38	△ 52.73	31.47

●株式の状況 (2007年3月31日現在)

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式総数	19,063,968株
株主数	31,680名

●大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
瓦葺利夫	4,442,900	23.31
有限会社ティケイケイ	2,729,441	14.32
有限会社トウイール	2,000,000	10.49
瓦葺一利	753,500	3.95
瓦葺一香	649,372	3.41
商工組合中央金庫	518,400	2.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	316,300	1.66
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・株式会社 三井住友銀行退職給付信託口)	311,000	1.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	289,600	1.52
松屋社員持株会	226,089	1.19

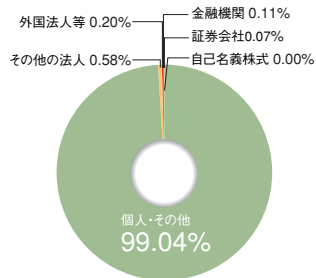
●会社概要 (2007年3月31日現在)

設立	1980年1月16日
資本金	6,655,932千円
代表取締役社長	瓦葺利夫
従業員数	1,072名
売上高	597億円(第32期実績)
本社	東京都武蔵野市中町一丁目14番5号
工場	嵐山：埼玉県比企郡嵐山町花見台4番地3号 富士山：静岡県富士宮市大字北山字峯4242番地4号
店舗	736店(直営727店、FC9店) ※海外8店舗を除く
事業内容	・牛めし定食事業 ・とんかつ事業、鮎事業、ラーメン事業 ほか ・フランチャイズ加盟店への食材等の販売及び 経営指導

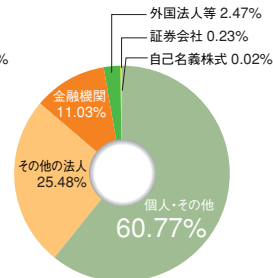
●役員一覧 (2007年6月21日現在)

代表取締役社長	かわら 瓦 葺 利 夫
専務取締役	みどり 緑 川 源 治
専務取締役	まつ 小 松 崎 克 弘
取締役	さくら 桜 島 茂 雄
取締役	さく 佐 藤 雅 敏
取締役	さい 斎 藤 道 夫
取締役	うす 薄 井 芳 人
常勤監査役	さい 斉 木 兼 芳
監査役	ふじ 藤 の 木 清
監査役	やま 山 本 宏

●所有者別状況(株主数)



●所有者別状況(株式数)



教えて! 松屋

Q 携帯用のホームページはありませんか？

A 携帯版ホームページはすでに開設しています！松屋のキャラクター「ウシ松君」が松屋モバイル店の従業員として頑張っています！また、「常連になる」から会員登録していただくと、ウシ松君から新メニュー情報やお得な情報が届きます。さらに便利な店舗検索機能では、簡単にお店の場所を探することができます！アクセスはこちらから <http://ktai.at/matsuyafoods/>

Q 松屋で出てくる食材の産地が気になります。原産地情報は教えてくれるの？

A 松屋では、お客様に安心してお食事をしていただけるよう主要な食材の原産地情報をホームページにてお知らせしています。

Q 個食パックはどこで買えるの？

A 松屋の味をご家庭でも楽しめる冷凍個食パックは、約470店舗の松屋で好評発売中！その他、松屋のホームページにアクセスしていただくとオンラインショッピングでお買い求めいただくこともできます。
<http://www.matsuyafoods.co.jp/>
さらにフリーダイヤルでも簡単にご注文いただけます！
フリーダイヤル0120-127-230
携帯電話からは0422-38-1206

【アンケートに関するお願い】

当社では、株主、投資家の皆様とのコミュニケーションを図るため、アンケートを実施させていただきたく存じます。お手数ではございますが、質問にお答えいただき、ご投函ください。ご協力お願いいたします。

株主の皆様へアンケートのお願い

- 当社株式をどの位の期間保有されていますか。
a. 10年以上 b. 7年～10年 c. 5年～7年 d. 3年～5年
e. 1年～3年 f. 1年未満
- 今後の当社株式についてどのような方針をお持ちですか。
a. 売却 b. 長期保有 c. 買い増し
また、上記方針を決定するための判断材料は何ですか。(複数回答可)
a. 株価 b. 配当 c. 将来計画 d. 業績
e. その他()
- IR情報の提供手段としてどのようなものを希望されますか。
a. 株主通信 b. 投資家説明会 c. インターネットホームページ
d. IR広告 e. その他()
- 当社の「冷凍個食パック」をご賞味いただいたことはありますか。
a. ある → (4-1.4-2.へ) b. ない → (4-3.へ)
- 4-1. 問4で「a.ある」とお答えされた株主様へお聞きします。「冷凍個食パック」をご購入(優待券との引き換え含む)された回数は何回ですか。
a. 1回のみ b. 2～3回 c. 4回以上
- 4-2. 問4で「a.ある」とお答えされた株主様へお聞きします。「冷凍個食パック」のご購入手段は次のうちどれですか。(複数回答可)
a. 優待券との引き換え b. 当社ホームページより注文
c. インターネットショッピング(楽天市場ほか) d. スーパー/生協
e. 店舗で購入 f. テレビ通販 g. 電話注文
h. その他()
- 4-3. 問4で「b.ない」とお答えされた株主様へお聞きします。「冷凍個食パック」をご賞味いただいていない理由をお聞かせください。(複数回答可)
a. 知らない b. 知っているが購入しようと思わない
c. 購入方法がわからない d. 値段が高い e. 商品の種類が少ない
f. その他()
5. 当社へのご意見ご要望をお聞かせください。
()

ご協力有難うございました。